

平成 25 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域から信頼され必要とされる「地域に根ざした身近な府立高校」づくりを進めながら「自己肯定感、達成感にあふれ、他者とつながり自信を持って生きていくことのできる生徒の育成を図る」そのため、学校の中に聴き合うことを基本として「心の体力」をしっかり温めあい、互いを尊重できる良好なコミュニケーションを育て、学び合い高め合う関係を構築する。その上で、すべての生徒に以下の「心と態度と力」を身につけさせる。

- (1) 健やかな体と豊かな心
- (2) 学ぶ喜びと将来への希望を持たせ、本来自分が持つ力を発揮する態度
- (3) 反省と克己に基づく自己教育力を育成し、自己選択・自己決定ができる力

2 中期的目標

1 確かな学力の育成(勉強がわかる喜びの育成)

- (1) 生徒の基礎学力を向上させる
 - ① 「わかる授業」・「楽しい授業」を実現するため、習熟度別少人数授業を積極的に展開し、小・中学校でのつまずきを回復し、基礎学力の充実を図り、自ら学ぶ意欲を育てる。
 - ② 公開授業や研究授業などの授業力向上研修を積極的に展開し、授業の質と教員の授業力の向上に努める。
 - ③ ICT 機器を活用し、生徒が意欲的に取り組むことのできる授業作りに取り組む
- (2) 生徒の興味・関心、進路希望等に応じた教育課程を編成する。
 - * 学校教育自己診断における「授業は分かりやすく楽しい」の項目を3年間で70%に引き上げる。

2 子どもたちの規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみ。

- (1) 生徒の規範意識を高め、社会人として活躍できる人材を育成する。
 - ① 地域と連携したボランティア活動(クリーンキャンペーンやあいさつ運動)を通して、社会の一員としての自覚を養い、規範意識の育成に努める。
 - ② 時間を守ることの大切さを徹底して指導し、欠席・遅刻・早退を減少させる。
 - ③ 通学時の安全確保のため、正門・通用門及び校外においても毎日交通安全指導を行う。
 - * 欠席者数・遅刻者数を毎年2割ずつ減少させ3年後には半減させる。
- (2) クラブ活動の活性化を図り、その成果を校外へ発信することにより、自己肯定感を養い、自立的発達を促す。
 - ① 部活動加入率を引き上げるため、新入生に対し部活動週間を設ける。全新生が一定期間、事前に登録した部活動に仮入部し、上級生との人間関係を作ることので、加入率をアップさせる。(体験入部を2日間放課後に実施する。)
 - ② 生徒に魅力あるクラブ活動を提供できるよう、教員が専門的知識の習得とスキルアップに努める。
 - * 生徒の部活動加入率を3年後に40%まで引き上げる(平成24年度は22%)

3 中退防止の推進

- (1) 1、 確かな学力の育成 ・2、子どもたちの規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみに係る取り組みを実践することで、留年者・中途退学者数を30%減少させる。

4 学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり

- (1) 入学時のオリエンテーションの内容を見直し、生徒が生き生きと学び夢が実現する学校であることをアピールする。
 - ① 学校教育と家庭教育の連携を深め、保護者からの相談を積極的に受け入れる。また、学校からはさまざまな指導の協力を要請をする。
 - ② カウンセリングマインドを持ち、生徒の立場に立った指導を展開する。家庭との連携をとりながら生徒の自立を助け、正しい規範意識を身に付けた社会人の育成を行う。
 - ③ 在籍生徒の出身中学校に年2回以上の学校訪問を行い、中学校との連携をよりいっそう密接に行う。生徒指導においては中学校教員の協力を得ながら、人間関係作り・自らの生き方を考える取り組みを推進する。
 - * 学校教育自己診断における「学校に行くのが楽しい」の項目を今後3年間で70%以上に引き上げる。
- (2) 学校ホームページの充実を図り、学校情報の発信を強化することで、学校の信頼を高め、必要とされている学校という自信を生徒に持たせる。
 - ① 広報活動の中心組織を設置し、学校説明会・学校公開講座・楽習室の充実をはかり、開かれた学校作りに努める。
- (3) 3年間を通じた計画的なキャリア教育を構築し、自らの手で将来を切り開く目と力を養い育成する。
 - * キャリア教育において外部人材の登用回数と資格取得の機会を増やす。

5 学校運営体制の確立と教職員の資質向上

- (1) 校長のリーダーシップのもと、校内組織の改編に取り組み、教育活動全般の改革を推進する。
- (2) 教職員の資質向上を図るため日常的なOJTの推進と校内研修の活性化を行う。
- (3) ミドルリーダーの育成、教職経験の少ない教員の資質向上を図り、次世代の人材育成を行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
確かな学力の育成	(1)生徒の基礎学力を向上させる	①教科での公開授業を定期的に行い、「わかる授業」「楽しい授業」の定着を目指し、教員相互で授業力向上を図る。 ②従来行っていた「数学」、「英語」、「体育」での少人数授業を、「数学」、「英語」においては、さらに踏み込んで習熟度別授業で学力レベルに合った授業を行う。 ③保護者向けの授業公開期間を学期に一度設定し、参加者の増加を図る。	①授業アンケートの「授業中は集中して先生の話を聞き学習に取り組んでいる」や「授業に興味・関心を持つことができた」の項目における満足度を70%以上にする。 ②学校教育自己診断における「授業は分かりやすく楽しい」の項目を70%以上にする。 ③保護者の参加者数を50名以上にする。	
豊かな心のはぐくみ。子どもたちの規律・規範の確立と	(1)生徒の規範意識を高め、社会人として活躍できる人材を育成する。	①地域と連携したボランティア活動（クリーンキャンペーン年間3回、あいさつ運動年間3回）の実施 ②遅刻指導の方法を一部見直し、生徒に自ら時間を守ることの大切さを考えさせる。 ③通学時の安全確保のため、全教員で当番を組み、毎日の校外で自転車指導を行う。	①千代田駅前でのあいさつ運動参加者数。 クリーンキャンペーン参加者数。 ②遅刻者数20%減をめざす。 ③学校協議会における地域代表者等から評価していただく。	
中退防止の推進	(1)生徒が生き生きと学び夢が実現する学校づくり。	①家庭との連携を強化する。連絡は電話や手紙に加えて可能な限り対面式とする。生徒指導以外にも積極的に家庭訪問を実施し、保護者との人間関係を構築する。 ②担任と副担任が協力して生徒の状況把握に努め、小さな変化も見落とさず、変化があれば面談をし、その後教員がチームを組んで指導する。 ③中学校訪問で在籍生徒の情報を伝え、指導上の協力を要請する。 ④生徒の学習面での不安を除くために、学び直しの補習や講習を内容・回数ともに充実させる。 ⑤生徒の自尊感情を高め、自信をつけさせるために、総合的な学習の時間等を利用し、漢検・英検・数検などの資格取得を支援する。	①学校教育自己診断の「学校に行くのが楽しい」の項目を70%に引き上げる。 (H24は53%) ②学校見学会の参加者100名以上にする。 (H24は70名) ③学校開放講座の参加者50名以上をめざす。 (H24は30名) ④漢検・英検・数検の合格者100名をめざす。 ⑤中退者数10%減をめざす。	
学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり	(1)生徒が生き生きと学び夢が実現する学校であることをアピールする。	① カウンセリングマインドを持った、生徒の立場に立った生徒指導を展開し、生徒の自立を助け、正しい規範意識を身に付けた社会人の育成を行う。 ② 困った感を持っている生徒の情報を、出身中学校にも情報を提供し、また情報収集しながら、生徒の人間関係作り・自らの生き方を考える取り組みを推進する。 ③河内長野市及び隣接の富田林市・大阪狭山市の中学校訪問回数を増やし、連携強化を図る。 ④広報活動の中心組織を設置し、学校説明会・学校開放講座・楽習室の充実をはかり、開かれた学校作りに努める。 ⑤携帯連絡網を新たに構築し、リアルタイムな情報提供を努める	①相談室の利用者数10%増加と生徒指導の懲戒件数10%減少をめざす。 ②近隣3市の中学校訪問回数を学期に一度行う。 ③学校教育自己診断の「学校からの教育情報提供」の項目の満足度90%をめざす。 ④年間2回行っている楽習室の講師を、校外にも求め参加者50名をめざす。 (H24は30名) ⑤学校教育自己診断における「保護者への情報提供」の項目で、満足度を75%以上にする。	